

特集：2014年「オーディオ・ホームシアター展」より

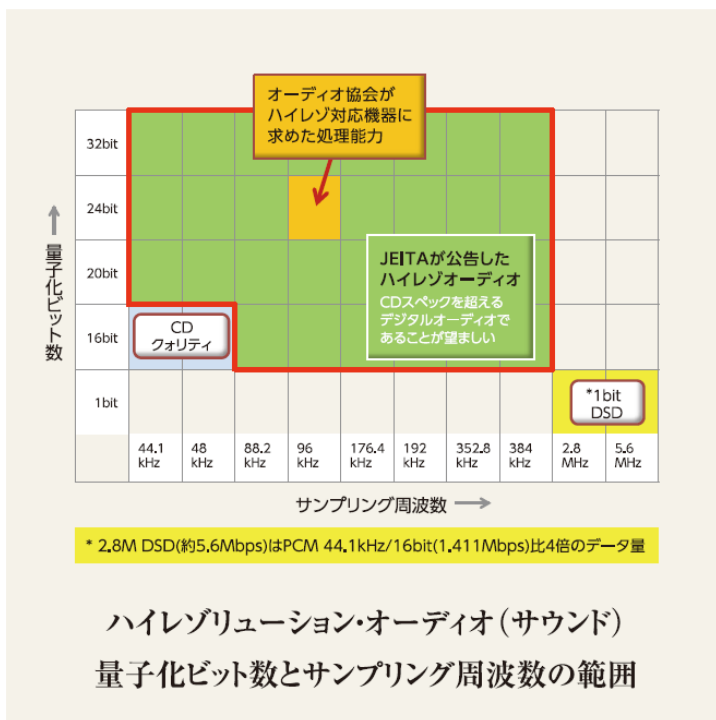
ハイレゾで楽しむネットワークオーディオ

パイオニアホームエレクトロニクス株式会社

鈴木 信司

はじめに

ながらく、30年以上にもわたって、CD（ないし「CD相当」なるもの）は、オーディオ品質を表現するうえで重要な指標として君臨してきました。しかし、昨今新たな潮流が予感されるようになってきました。本年3月、JEITAより「ハイレゾオーディオの呼称について」と題する文書が発表され、『「ハイレゾオーディオ」と呼称をする場合“CDスペックを超えるデジタルオーディオ”であることが望ましい』と定義されました⁽¹⁾。また、日本オーディオ協会は6月に「ハイレゾリューション・オーディオ（サウンド）の取り組み」と題した記者発表会を行い、ハイレゾ対応機器に求められる性能を定義すると同時に、定められた性能を満足する製品に使用が認められる推奨ロゴを発表し、ハイレゾ普及促進の取り組みを示しました⁽²⁾。これらの発表は多くのマスコミに取り上げられ、オーディオファンにとどまらない広範囲な方々から注目されました。以下に、JEITAの「ハイレゾ」定義と日本オーディオ協会の「ハイレゾ」対応機器に求められる性能の模式図、および推奨ロゴを示します。



ハイレゾ定義とハイレゾ対応機器の定義



推奨ロゴ

本年のオーディオ・ホームシアター展では、さらに認知度を高めるため展示会全体のテーマを「ハイレゾ」とし、さまざまな展示を通じてハイレゾの魅力アピールしました。本稿では、

その一つとして、「ハイレゾで楽しむネットワークオーディオ」と題した協会テーマコーナーでの展示をご紹介します。

ハイレゾとネットワークオーディオ

ハイレゾとネットワークオーディオは、実は非常に密接な関係にあります。

① ネットワークオーディオ技術の登場と浸透

かつてオーディオ音源はディスク、ないし放送を介して楽しむのが一般でした。新たなオーディオ音源を提案するには、まず新しいオーディオフォーマットと記録/伝送方式を定義し、次いでその記録/再生を可能にする装置を開発する、という過程が必要だったため、方式の進化は緩やかでした。ネットワークオーディオは、ネットワークという手段を用いることによる利便性の向上も大きな魅力ですが、データ形式のまま音源を扱えるため方式を決定するためのプロセスを大幅に簡略化できる、という点も大きな利点です。この利点がハイレゾの発展に寄与します。

② ハイレゾへの進化

デジタル技術の高速化に伴い、ネットワークを介してより大容量のデータを伝送できるようになってきました。この大容量伝送能力と製品の高速デジタル処理能力の進化を高音質化の方向に活用したのがハイレゾ技術です。①で示したように、ネットワークオーディオでは新しい方式の音源をどんどん受け入れる土壌があるため、技術の進歩に伴い、可逆圧縮技術、DSD 伝送技術等ハイレゾ技術が急速に進化しました。

③ ハイレゾ音源の配信ビジネスの発展

インターネットを介しハイレゾデータを配信して販売するビジネスが始まっています。配信ビジネスはすでに多方面から関心を集めていますが、インターネット技術の高速化・高品質化により、ハイレゾ音源もインターネットを介して購入できるようになってきました。利便性を確保しつつ高音質音源に触れられる機会がどんどん増えてきています。

ハイレゾとネットワークオーディオは、それぞれがそれぞれのメリットを補完しあうものと言えます。今回テーマコーナーでは、この観点から「ハイレゾで楽しむネットワークオーディオ」と銘打ち、ハイレゾ音源の魅力と、ネットワークオーディオ技術の活用による様々な楽しみ方を具現化しました。

協会テーマコーナー概要



17社20ブランドの製品・サービスを集結し、3つの展示を併設しました。

- (1) ユースケース展示
- (2) 一覧展示
- (3) 配信展示

以下、それぞれについて概要を紹介します。

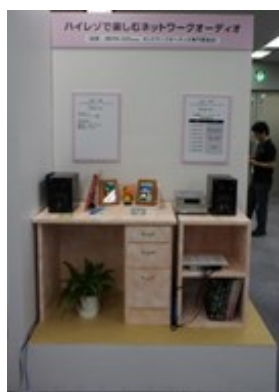
(1) ユースケース展示

ネットワークオーディオを楽しむシーンとして、3つのシーンを模したインテリアの中にそれぞれオーディオ製品を置き、各オーディオ機器メーカー説明員によるプレゼンテーションとハイレゾ音源の試聴を行いました。

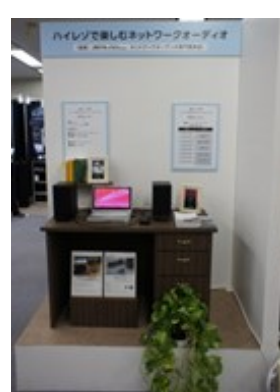
- ① リビングシーン：リビングルームを模したインテリアにフルサイズのオーディオ製品を配置、ハイレゾの実力を楽しんでいただきました。
- ② プライベートシーン：子供部屋を模したインテリアにミニコンポサイズのオーディオ製品を配置、データ記憶装置に入れたオーディオデータを、リビングルームだけでなく家庭内の各部屋に置いたネットワークオーディオ機器でも自由に楽しめることを紹介しました。
- ③ 書斎シーン：パソコンとオーディオ製品を直接つないでハイレゾを楽しむ方法もあります。このシーンでは、書斎のデスク上に、USB DAC 搭載製品とパソコンとでハイレゾ環境を構築しました。



リビングシーン



プライベートシーン



書斎シーン

(2) 一覧展示

会場中央のユースケース展示を取り囲むように、それぞれのシーンに最適な各社製品を一覧に集め展示しました。リビングシーンにはフルサイズのコンポーネント9機種、プライベートシーンにはシステムオーディオ7機種、書斎シーンにはUSB DAC 搭載製品15機種を展示、全ての機器にヘッドホンないしスピーカーを配備して、お客様が自由に製品の音質や使い勝手を比較できるようにしました。ここでも音源には当然ハイレゾ音源を使用しました。



リビングシーン



プライベートシーン



書斎シーン

(3) 配信展示

日本オーディオ協会に加盟している配信会社3社が、日々増え続けるハイレゾ音源の現況を紹介しました。再生環境も用意し、各社自慢のハイレゾ音源を試聴いただきました。



課題と今後の取り組み

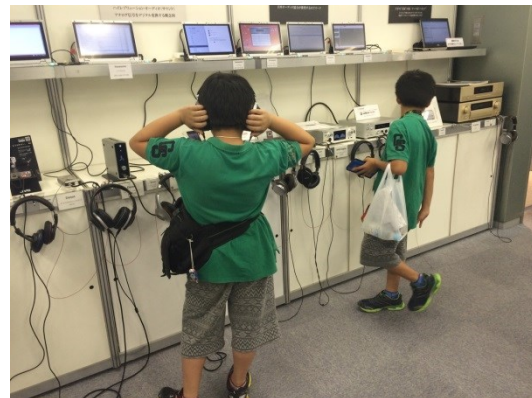
今回の展示では、ハイレゾおよびネットワークオーディオの楽しさを体感していただきました。多くの方々にその魅力を感じとっていただけたと思います。

しかし、ハイレゾが広く浸透するには一層の普及促進活動が必要です。また、ハイレゾは、自由に発展できる環境を生かし急速に進化してきましたが、進化速度が速いがゆえに方向を誤ると互換性や品質の面で混乱を招くリスクもあり、健全な進化をサポートしていく必要があります。

ネットワークオーディオについても、オーディオ技術の新たな進化の方向を示す一方で、従来オーディオ機器とは接点の少なかったパソコン、スマートフォン、ルータ等のネットワーク機器、あるいはインターネットといった環境との異文化交流が必要になるため、お客様が戸惑うことのないよう丁寧な解説が必要です。

こういった課題を解決していくため、日本オーディオ協会では、JEITAとも手を携え、展示会やホームページ⁽³⁾といった場を活用した啓発活動、用語解説・ガイドの作成といった情報発信、健全な進化のためのルール作り、さらに次の世代に向けての研究に取り組んでいます。

次回の展示では、さらに進化・充実した世界を御紹介したいと考えております。どうぞご期待ください。



筆者プロフィール： 鈴木 信司（すずき しんじ）

1982年パイオニア株式会社入社。オーディオ製品およびビジュアル製品の開発・設計、ネットワーク技術開発等に従事。現在パイオニアホームエレクトロニクス株式会社技術部。日本オーディオ協会ネットワークオーディオ委員会主査。JEITA ネットワークオーディオ専門委員会委員。

- (1) http://home.jeita.or.jp/page_file/20140328095728_rhsiN0Pz8x.pdf
- (2) <http://www.ias-audio.or.jp/jas-cms/wp-content/uploads/2014/06/doc14061201.pdf>
- (3) <http://www.network-audio.jp/>